

夜須高原・県内青少年教育施設合同ボランティア養成研修

第1回自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業（合同開催）

1 趣 旨

青少年教育施設における今日的な課題を理解し、子どもたちの体験活動を支援するボランティア活動について、基本的な知識や技能を習得するとともに、法人（施設）ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。また、研修をとおして参加者同士の交流を図る。

なお、本研修の講義・実習の一部は、自然体験活動「指導者（NEALリーダー）養成事業の履修科目」として認定する。

2 主 催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3 共 催

福岡県立社会教育総合センター、福岡県立英彦山青年の家、福岡県立少年自然の家「玄海の家」

4 期 日

平成29年6月3日（土）～4日（日）〈1泊2日〉

5 会 場

国立夜須高原青少年自然の家

6 対 象

大学生、社会人 50名 程度

7 参加者

○参加人数：34名

・大学生：23名、社会人11名

○県立青少年教育施設職員：13名

8 日 程

○6月3日（土）

（午前）開会式

講義Ⅰ「青少年教育の理解」

講師：福岡県立少年自然の家「玄海の家」 主任社会教育主事 白土 智章

（午後）講義Ⅱ「ボランティア活動の意義」

講師：福岡県立英彦山青年の家 主任社会教育主事 井ノ上 正和

実習Ⅰ「野外調理」

講師：福岡県立社会教育総合センター 指導主事 高瀬 博

講義Ⅲ「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」

説明：福岡県立社会教育総合センター、福岡県立英彦山青年の家

福岡県立少年自然の家「玄海の家」、国立夜須高原青少年自然の家

○6月4日（日）

（午前）実習Ⅱ「救命救急」

講師：waku waku OFFICE あそBe隊 代表 薄井 良文

(午後) 講義Ⅳ「青少年教育施設の現状と運営」(実践発表)

発表者：福岡工業大学 畔柳 達也、福岡県立大学 假屋 真帆

福岡県立英彦山青年の家 麻生 朋実

諸連絡、ふりかえり、NEAL(自然体験活動指導者)説明

国立夜須高原青少年自然の家 事業推進係主任 西川 真一郎

## 9 活動の実際



【負傷者の対応について学んでいます】



【意識のない人を運ぶのは大人でも大変です】



【経験を共有し合うことで、話が盛り上がります】



【積極的な意見交換が行われました】



【各班が協力して美味しいカレーができました】



【職員の指導の下、薪割りを行っています】

## 10 感想

- 子供達と活動する時に「何もありませんように」と祈るより、『何かあったらこうする』という心構えが、行動範囲が広がると思いました
- 初めて学ぶことが多かったし、実際に体験を通して、失敗し、考え学べて楽しかったです。このボランティアに参加して本当によかったです。
- 2日間お世話になりました。救急救命講習がとてもよかったです。消防署の講習よりも良かったです。
- ものすごく勉強になりましたし、楽しかったです。

- 最初は単位のためだけに参加してたけど、研修を通し、いろんな人と交流していく上で学ぶことがたくさんあり、ボランティアに少し興味がわいてきました。
- ボランティア向けなので硬いかと思ったが、大変楽しく研修させていただきました。
- 施設の説明があまりなかったのが、少しわかりにくかったです。

#### 11 成 果

- 福岡県教育庁教育企画部社会教育課と国立夜須高原青少年自然の家との関係が築けていることで、県立3青少年教育施設の職員7名を派遣していただいた。また、講義Ⅲ・実習Ⅱ以外の講義・実習については、福岡県社会教育主事が講師として、それぞれの講座を担当していただいた。
- 4施設で企画することで、研修内容が充実し、参加者に対してボランティア活動についての基本的な知識や技能の習得を図ることができた。
- 佐賀県まなび課が県をあげてNEAL取得者を増やそうとしており、今年度より佐賀県枠で募集をしてもらい、10名の参加があった。

#### 12 課 題

- 年度が始まってからすぐの状況では大学の集中講義等との日程が把握しきれておらず養成講座の開催日との重なりがある。
- 特に大学生においては、近隣の施設へボランティアに行くことが多く、大学で広報を行ったとしても夜須高原に定期的に来ることが少なく、効果が薄い。
- 現状、NEALの認知度が低く、資格を取ることにメリットが見いだせていないため、NEALの資格が取得できるということは参加の動機にはつながらないため、メリットを生み出す必要がある。